

授業科目名： 実践英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：平岡 麻里 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
「学位授与の方針」との関係 星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。 A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。 B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。 D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。 E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業のテーマ及び到達目標			
<u>英語で考えをまとめ、発表するスキルを磨こう！</u>			
・ 様々な話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や自らの考えを英語で整理できる。 ・ 様々な話題の英語を読んで、目的に応じて情報や自らの考えを英語で整理できる ・ 様々な話題について、自らの考えを英語で整理し、発表資料が作成できる。 ・ 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて自らの考えを英語で話すこと〔発表・やり取り〕ができる。			
授業の概要			
実践英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを通して、中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。そのうち、実践英語コミュニケーションⅡでは、実践英語コミュニケーションⅠで培った「聞く、読む、話す〔やり取り・発表〕、書く」能力のレベルアップを図るとともに、アクティブラーニングの手法も用いて、英語で考えをまとめて発表原稿を作成し、それをもとに発表し、他者とやり取りする能力を磨くための演習を行う。また、パワーポイントによるスライド作成、画像/音声データの取り扱い、LMS(GoogleClassroom)の使用など、ICT の利用も経験する。			

授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：自己紹介で自分をアピールする（読む・聞く・書くを中心に）

第3回：自己紹介で自分をアピールする（発表・やり取りを中心に）

第4回：ニュースを世界に伝える（読む・聞く・書くを中心に）

第5回：ニュースを世界に伝える（発表・やり取りを中心に）

第6回：長期休暇の過ごし方を企画・提案する（読む・聞く・書くを中心に）

第7回：長期休暇の過ごし方を企画・提案する（発表・やり取りを中心に）

第8回：日本の魅力を世界に紹介する（読む・聞く・書くを中心に）

第9回：日本の魅力を世界に紹介する（発表・やり取りを中心に）

第10回：日本の社会問題を議論する（読む・聞く・書くを中心に）

第11回：日本の社会問題を議論する（発表・やり取りを中心に）

第12回：将来の計画について（読む・聞く・書くを中心に）

第13回：将来の計画について（発表・やり取りを中心に）

第14回：将来の計画について（書き言葉での英文エッセイ「10年後の自分」を作成する）

第15回：まとめ（学んだことを整理し、今後に活かせるよう自己課題を明らかにする）

定期試験

*スクーリングでは第3回と第9回を中心に行い、すべての内容を包括的に取り上げる。

教科書

松岡昇、立野貴之、三宅ひろ子『Presentations to Go: Building Presentation Skills for Your Future Career』、センゲージラーニング株式会社（2014）

参考文献

（1）英語学習者向け英英辞典（電子辞典推奨）。以下を例として挙げる。

Longman Dictionary of Contemporary English
Oxford Advanced Learner's Dictionary

（2）大学レベル以上の文法参考書。以下を例として挙げる。

綿貫陽、須貝猛敏、宮川幸久『ロイヤル英文法』（改訂新版）旺文社 2010 年
大西泰斗、ポール・マクベイ『一億人の英文法』東進ブックス（ナガセ） 2011 年

（3）発音とリズム・イントネーションの入門用参考書として、以下を紹介する。

岩村圭南(2019)『改訂版 英語の正しい発音の仕方（リズム・イントネーション編）』研究社 一CDは別売りだが、自己学習には必要。なお、『…（基礎編）』では発音記号を学ぶ。

河合裕美、高山芳樹(2021)『きいて・みて・まねて覚える英語の音—動画でできる音声指導』大修館書店

高山芳樹(2019)『最強の英語発音ジム「通じる発音」と「聞き取れる耳」をモノにする』アルク

（4）科目修得試験のエッセイ課題の参考書として、以下を紹介する。

リーパーすみ子、横川綾子（著）『アメリカ人なら小学校で学ぶ 英文ライティング入門』アルク(2014)

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で

総合して評価する。